

大公園（大阪市営公園）の魅力向上に向けた基本方針（素案） 概要版

序章 基本方針策定の背景

- 都市公園は時代の要請に応じて多様な機能・効果を有するようになり、現在では様々な人が様々な目的でその効用を享受している
- 大阪市では、大阪城公園、天王寺公園（一部）などの管理運営に民間活力を導入し、魅力向上を図ってきた
- 今後はその他の大公園（中之島公園ほか10公園）について、各公園の特性に応じた魅力向上を図るため、「大公園（大阪市営公園）の魅力向上に向けた基本方針」を策定する

中之島公園ほか10公園

- 中之島公園 ■扇町公園 ■毛馬桜之宮公園 ■靱公園
- 千島公園 ■真田山公園 ■中島公園 ■十三公園
- 城北公園 ■南港中央公園 ■正蓮寺川公園



第Ⅰ章 都市公園・大公園の現状

都市公園を取り巻く状況

持続可能な開発目標（SDGs）

社会情勢などの変化

- 人口減少 ■生活意識の変化
- 新型コロナの拡大 など

大阪市営公園に関する状況

- 公園施設の老朽化・陳腐化
- 公園緑化事業予算の減少
- ボランティアなどの担い手不足

都市公園に関する近年の施策

国の動向（新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について）

- ストック効果をより高める
- 民との連携を加速する
- 都市公園を一層柔軟に使いこなす

大阪市の動向

- 新・大阪市緑の基本計画 ■関連計画
- 花博30周年記念イベントを契機とした新たな公園活用

大阪市営の大公園に関するこれまでの取組

魅力向上の取組（民間活力の導入）

- 指定管理者制度（長居公園、八幡屋公園など）
- 公園施設設置管理許可制度（天王寺公園など）
- PMO事業（大阪城公園） など



大公園（大阪市営公園）の魅力向上に向けたマーケットサウンディング（市場調査）

- 中之島公園ほか10公園の魅力向上のアイデアを募集し、28団体から49件の提案を受け付けた

第Ⅱ章 大公園の魅力向上に向けた共通の考え方

- 都市公園が有する公共性を担保し続けることを前提とした上で、多様な機能を有する大公園ならではの特性を踏まえ、次の3つの共通の考え方を整理
- 各公園の特性を活かした魅力向上を図り、周辺エリアの活性化や価値向上、さらには都市公園の機能と親和性の高いSDGsの達成への貢献にもつなげていく

都市の基盤施設・地域の拠点としての質の高い都市空間の確保

- 都市公園は都市の中の貴重なみどりのオープンスペースであるため、公共性を確保し続けながら、その機能を最大限に高めることが重要
- 既存ストックの有効活用などの創意工夫を凝らしながら良好な維持管理を持続的に行い、質の高い都市空間を維持・創出していく



公園の新たな使い方・楽しみ方の提供

- 公園の新たな使い方・楽しみ方を提供し、市民生活の質の向上を図る
- コロナ禍における「新たな生活様式」の実践にも貢献する



公園の特性に合わせた官民連携による公園マネジメントの導入

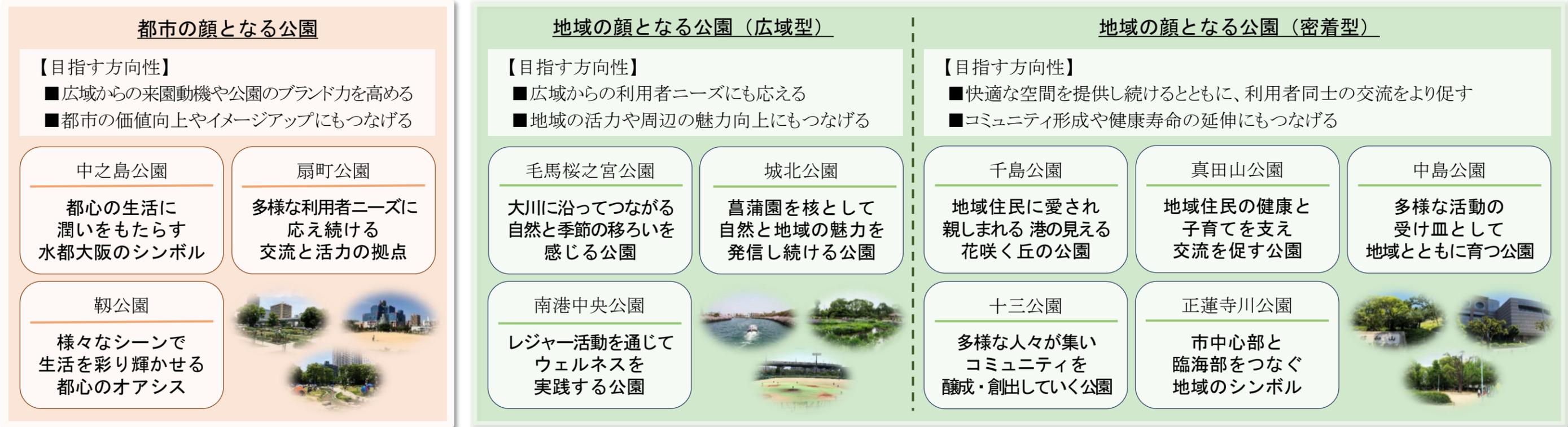
- 市民・民間事業者・行政などからなるプラットフォームの構築などにより、公園での活動とその効果が周辺にも派生していくよう、公園の特性に応じた最適なマネジメント手法を導入する



大公園（大阪市営公園）の魅力向上に向けた基本方針（素案） 概要版

第三章 中之島公園ほか10公園のコンセプト

- 立地特性や主な公園施設、想定される利用者特性を踏まえ、「都市の顔となる公園」（商業・業務系エリアに立地、広域から日常的に利用者が訪れうる公園として高いポテンシャルを有する）と「地域の顔となる公園」（住居系エリアに立地、主に地域の方々の利用が想定される）に分類
- 地域の顔となる公園は、定期的・一時的に広域からの利用も増加しうる「広域型」と、より地域の方々の利用が中心となっている「密着型」に細分化



第四章 中之島公園ほか10公園の魅力向上に向けた取組

- 都市公園が有する公共性の確保を前提とした上で、市民や民間事業者などとの連携を積極的に図り、必要に応じて行政がサポートしながら、魅力向上に向けた取組を展開していく

